

氏名	しもで まり <b>下出 茉莉</b>
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博甲第1000号
学位授与の日付	令和3年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 デザイン学専攻
学位論文題目	<b>漆芸家迎田秋悦の作品と思想</b>
審査委員	(主査)教授 並木誠士 教授 平芳幸浩 教授 中川 理 講師 井戸美里

### 論文内容の要旨

本論文は、明治から昭和初期にかけて活躍した京都の漆芸家 迎田秋悦(1881-1933)の生涯にわたる活動の実態と、その創作活動における工芸思想を明らかにするもので、2部構成、全6章からなる。

第1部「漆芸家 迎田秋悦の生涯と創作活動」では、第1章から第4章において、迎田秋悦の生涯にわたる活動をたどり、創作活動の実態を明らかにしている。

第1章「研究の背景」では、浅井忠(1856-1907)と神坂雪佳(1866-1942)から図案指導を受けた秋悦が、とくに雪佳から琳派や古典への関心という点で明確に影響を受けている点を明らかにしている。

第2章「京都への転居から京都漆芸界での活躍」では、秋悦の生涯にわたる活動を編年的にたどっている。秋悦について、その履歴がはじめて詳細に紹介された。

第3章「宮崎タンス店での活動の展開」では、秋悦の活動経歴の中でも特に重要となった明治末から昭和初期にかけての宮崎タンス店での活動を採り上げている。そして、この一連の取り組みにおける制作経験が、秋悦の過去の漆芸作品に対する見識と技術を培う重要な場となっていたこと、および、秋悦の創作活動のなかで、宮崎タンス店での制作者としての活躍が特に重要なものであったと位置づけている。これは、当時の関西の美術工芸界の動向をも明らかにする、本論の重要な部分である。

第4章「帝展出品時代」では、晩年の作品を詳細に分析することにより、秋悦が蒔絵の形態と表現効果を駆使するかたちで創作を展開していたことを明らかにしている。また、秋悦の活動を支援した、実業家岸本吉左衛門の存在もはじめて指摘している。

第2部「工芸思想「民族性工芸」について」では、美術工芸振興が盛んとなる漆芸界の動向の中で、秋悦の関心が、近代以前の意匠表現に向いていることに注目し、秋悦の蒔絵観と制作理念を明らかにしている。

第5章「複製制作の意義」では、秋悦の言説の中でも特に重要となる昭和8年に行われた講演の記録を詳細に読み解くことで、秋悦が日本の漆芸品を「民族性工芸」であると位置付けていることを明らかにしている。また、秋悦による過去の名品の複製品の制作が、歴史的な漆芸作品に対する見識を培うための重要な制作経験であったと結論づけている。

第6章「工芸思想の展開」では、明治40年から昭和2年を対象時期とし、日本の漆芸品を「民族性工芸」と位置づける秋悦の創作活動は、伝統回帰の傾向とは別に、前近代までの漆工芸の精神を踏襲して現代における創作を展開していくということに、特に重点が置かれていたことを明らかにしている。

### 論文審査の結果の要旨

本論文は、明治時代末から昭和時代初期に関西を中心に活動した蒔絵師迎田秋悦について分析したものである。秋悦については、活動時期が比較的長いものの、これまで保守的な作家ととらえられて、十分な研究対象となつてこなかった。申請者の本論文が、現時点で秋悦についてはじめてのまとまった論考である。

本論文の意義は以下の3点である。

第1にこれまで経歴が明確になつていなかった秋悦の伝記を、同時代の資料をもとにはじめて明らかにした点である。

第2に、宮崎タンス店におけるさまざまな研究会を分析し、そこにおける秋悦の位置を明らかにした点である。宮崎タンス店が主催した研究会は、武田五一、本野精吾などの建築家や神坂雪佳のような工芸家、さらに画家なども加わり、当時の美術・工芸・建築などの動向を総合的に知ることのできる組織であるが、これまで漆芸史研究ではまったく注目されていなかった。本論文では、関西における宮崎タンス店の活動を俯瞰視しつつ、秋悦の蒔絵師としての立ち位置と雪佳との関係などを明らかにしている。

第3に、これまで古典的な作品を制作することにより保守的ととらえられていた秋悦の作品制作の本質に「複製制作」という視点を導入して、その意義を捉え直した点である。そのうえで、秋悦が講演中で述べている「民族性工芸」という語の解釈をおこない、秋悦の古典的作品の制作が、たんに保守的なためであるのではなく、秋悦の多様な作品制作のなかで、とりわけ大事にしていた技法研究のためのものであり、そこで培われた技術を活かして、帝展出品作品などを積極的に制作していたことを示した。

以上のように、本論は、これまで十分に論じられてこなかった迎田秋悦の作品制作について明らかにしたものであり、とくに、保守的という従来のとらえ方に対して、あたらしい視点を提示している点に意義がある。また、関西の美術工芸会全体のなかで秋悦の位置を明らかにしている点でも評価できる。

本論文は、査読付きの以下の2本の論文をもとにしている（いずれも申請者の単著）。

◇蒔絵師・迎田秋悦の制作活動と宮崎タンス店の関係性について—明治末から昭和初期の動向を中心に—（意匠学会編『デザイン理論』72号、65頁～78頁、2018）

◇迎田秋悦の創作活動における複製制作の意義（意匠学会編『デザイン理論』75号、29頁～42頁、2019）

なお、後者の論文は、2019年度意匠学会論文賞を受賞している。